

「見えないもの」への不安 職員の覚悟を感じた 説明会

あおき ひろし
青木 洋

檜葉町教育委員会 教育長

昭和30年（1955）、檜葉町生まれ、
岩手大学工学部卒業後、建設コンサルタント会社を経て1981年より檜葉町役場。
2012年7月から放射線対策課長として除染、放射性廃棄物、災害廃棄物の処理
などに携わる。2016年定年退職。総務課参事を経て2017年より檜葉町教育長。

目に見えないものに対する不安、それが当時、
大きいのしかかっていました。原発事故が起き、地震で屋根が損傷した自宅。
修理できないまま避難を余儀なくされた町民は、雨が降るたびに雨水と
放射性物質が屋内に入り込むのを避難先で心配することしかできなかった。
国の直轄で除染が行われることになり、説明会での住民の不安や憤りは
それは大きいもの。当初は私自身も放射能に関する知識がない不安の中、
環境省の若い職員の方が除染に対し相当な覚悟をもって説明会に臨んでいるのを
感じました。その覚悟が、説明会を重ねるうちに町のみなさんへと
伝わったのだと思います。少しずつ、理解をいただけるように。
こうして除染、仮置場の設置、廃棄物の処理という流れができていきましたが、
一方で「本当に安心できるのか」という住民の不安はなかなか拭えませんでした。
放射線に対しては科学的に言われる「安全」と、心で感じる「安心」は
イコールではない、という難しさを感じたこの10年でした。
今、インフラの整備など復興の形は整ってきましたが、これからのまちづくりが
重要だと考えています。檜葉町の未来である子供たちの育成にも
力を入れていきたいと思っています。



取材に応え、当時の檜葉町の現状を語る青木さん（左）
【2014年7月11日付福島民報掲載写真】